

シリーズ
第63回

こんな川崎、 これも川崎

「行動する教会」 在日大韓基督教会川崎教会 (川崎区桜本)



東西に約31km、南北に約19km。東京と横浜に挟まれた東西に細長い川崎市は、内陸の北側と海側の南では街の風景もかなり違います。そんな川崎の知られざる見どころを紹介します。今回は、建物全体を建て替え、リニューアルして間もない在日大韓基督教会川崎教会を紹介します。

健康まちづくり推進部 松田祐加子

2025.6.1
キムチやナムルの専門店がある川崎区桜本の商店街を進み、脇道に入ると、大きな十字架を掲げた白壁4階建ての建物があります。その3〜4階が在日大韓基督教会川崎教会です。

ただでなく、困っている人を救うための行動を起こすのが理念です。みんなの幸せを願って、人のために奉仕することを当たり前にしたいと考えています」と、教会員の李契順さんが話します。

老朽化に伴い2022年4月に全面建て替えしました。教会に入ると吹き抜けの空間が広がり、正面に色鮮やかなステンドグラスがあります。足を洗うイエスの一場面を描いたもので、「他者への思いやり」を表しているといえます。

「川崎教会は『ただ祈

川崎教会が行動を起こすのは昔からです。教会を1947年に設立した後、1973年に社会福祉法人「青丘社」を立ち上げ、認可保育園を開園しました。教会に通う人たちが「朝鮮人のお子さんは入れません」と露骨な差別で入園拒否され、途方に暮れていたためです。



他者への思いやりを表すステンドグラス

以来、青丘社を軸に福祉事業を展開。建て替えた新会館を「みんなの家」と名付け、高齢者向けデイサービスや障害者の就労支援、子ども食堂、外国にルーツがある子どもたちの学習サポート教室なども行っています。

青丘社理事長の三浦知人さんは、「みんなの家」を多文化共生・貧困・障害・高齢者などの課題に「寄り添い、伴走する」拠点にしたいといいます。在日コリアンの桜本地域以外への分散化が進むとともに、フィリピンや中国ルーツの住民の増加、日本人も含めた厳しい貧困の連鎖、差別主義者たちによるヘイトデモなど、さまざまな問題が複雑化・深刻化しているためです。

「いまや、在日コリアンだけでなく地域社会全体が助け合わなければ生きていきません。居場所を共有し、困難を抱えた人たちが未来を諦めず、不条理や差別に諦めず、力いっぱい生きられるように一緒に課題解決していきたい」と、三浦さんは穏やかに熱い信念を語りました。

教会は、土日祝祭日・年末年始を除く平日9時〜17時に見学可能。青丘社に事前連絡のうえ、1階スタッフルームに申し出てください。礼拝は毎週日曜11時から。予約不要。問い合わせは、青丘社(044-270-6127)まで。